

# よくわかる糖尿病

## 第四回 鹿児島県糖尿病対策推進会議の役割

鹿児島大学大学院糖尿病・内分泌内科学助教（診療講師）

出口 尚寿



これまで、鹿児島県における糖尿病の現状と課題、地域の特徴、そしてこれらの問題を解決していくために必要な糖尿病の発症予防・重症化予防について解説してきました。今回は、鹿児島県における糖尿病関連の様々な事業を展開する「鹿児島県糖尿病対策推進会議」について解説します。

### 糖尿病対策推進会議とは

21世紀における国民健康づくり運動「健康日本21」における糖尿病対策のために、2005年2月、日本医師会、糖尿病学会、糖尿病協会により「日本糖尿病対策推進会議」が設立されました。その後、日本歯科医師会を加えた4団体を幹事団体とし、活動主旨に賛同する14団体が構成団体として参画しました。一方、医療法では5疾病（糖尿病、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、精神疾患）に関わる医療計画を各都道府県で策定することとされ、その指針において

図1.糖尿病対策推進会議の構成

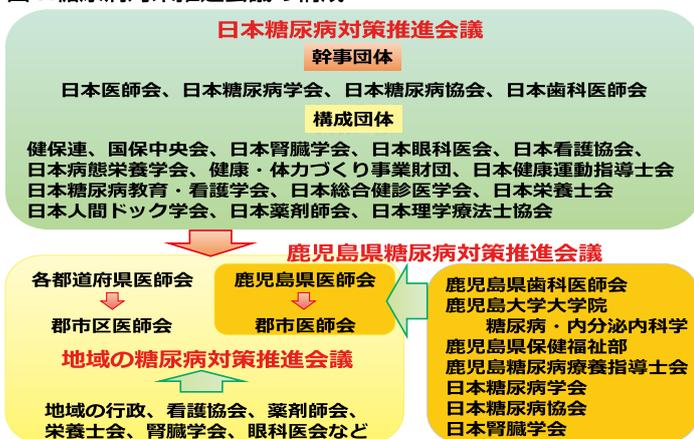
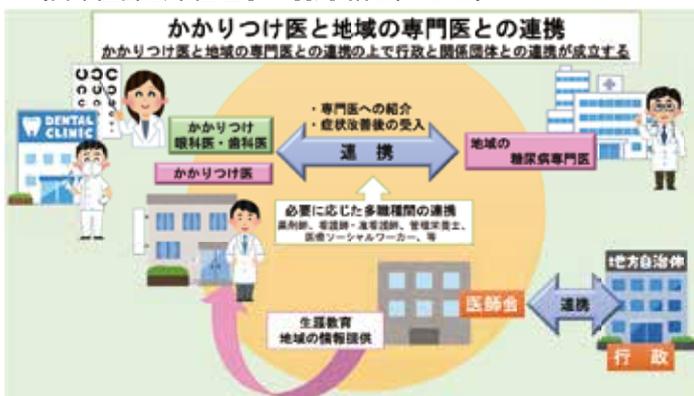


図2.かかりつけ医と地域の専門医の連携  
 （日本医師会常任理事 羽鳥 裕氏による）



も糖尿病対策推進会議を活用することが盛り込まれました。これを受け、2007年までに全国各都道府県で糖尿病対策推進会議が立ち上がり、地域の実情に応じた取り組みが始まりました（図1）。糖尿病対策推進会議が目標とする3つの柱は、①かかりつけ医機

能の充実と病診連携の推進（図2）、②受診勧奨と事後指導の充実、③糖尿病治療成績の向上であり、糖尿病治療の標準化、患者・医療従事者への啓発、関連する調査研究などの活動が行われていきます。今後、糖尿病診療データベースの構築や、地域の糖尿病対策推

写真1.小児糖尿病サマーキャンプ



写真2.世界糖尿病デー 一般市民向け啓発イベント



世界糖尿病デーでは、各地のランドマーク（鹿児島はアミュラン）がブルーにライトアップされます

**鹿児島県糖尿病対策推進会議の取り組み**  
 2006年4月に発足した鹿児島県糖尿病対策推進会議は、鹿児島県医師会、糖尿病学会、糖尿病協会、歯科医師会、保健福祉部、腎臓学会、鹿児島大学大学院糖尿病・内分泌内科学、鹿児島糖尿病療養指導士会（KCDE会）により構成されています。これら構成団体の賛同のもと様々な協力団体が参画し、幅広い活動が行われるようになりました。これまで各団体独自で行われていた小児糖尿病サマーキャンプ（写真1）、世界糖尿病デーイベント（写

進会議を活用した重症化予防に向けた取り組みを進めていく予定です。

写真3.糖尿病連携手帳  
(日本糖尿病協会発行)



鹿児島県の糖尿病専門医は62名と限られています。かかりつけ医と糖尿病専門医が医療連携を継続的に実践していくことが必要であり、糖尿病連携手帳(写真3)を利用した糖尿病診療に関する情報の共有が、患者に対する合理的な診療システムの円滑化につながります。また、糖尿病診療関係者が各地域の糖尿病対策推進会議の活動に積極的に参加し、地域における糖尿病診療の連携体制を構築す

## かかりつけ医機能の充実と病診連携の推進のために医療連携体制講習会と医科歯科医療連携

真2)、歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリーなど、患者さんや一般市民向けの事業は鹿児島県糖尿病対策推進会議の後援のもと各団体が協力して行う体制になりました。そして、日本糖尿病対策推進会議が目標に掲げる3つの柱のために、鹿児島県独自の取り組みが行われています。

写真4.糖尿病治療標準化鹿児島方式  
(始良地区にて)



ることが必要とされています。鹿児島県糖尿病対策推進会議では、定期的に「医療連携体制講習会」を開催し、かかりつけ医機能の充実と病診連携推進をサポートしています。また、「糖尿病治療標準化鹿児島方式」と題し、地域かかりつけ医と医療スタッフ向けに5回シリーズの講習会を鹿児島地区、始良地区、大隅地区で開催し、かかりつけ医でもインスリン治療が継続できる体制づくりを支援しました(写真4)。

糖尿病患者は歯周病になりやすく、歯周病が重症化している場合には、患者に自覚症状がなくても糖尿病の疑いを考慮する必要があります。また、血糖コントロールが悪いほど歯周病も悪化すると言われています。このため、医科歯

科相互の受診勧奨を行うなどの連携が必要となりますが、鹿児島県歯科医師会は、「歯科から発信する糖尿病医科歯科医療連携」として、県独自のツールを作成し、糖尿病連携手帳も併せた運用のための準備と広報を行っています。

## 受診勧奨、事後指導充実のために 鹿児島県地域糖尿病療養指導士(KCDEL)の育成

糖尿病医療において重要なことは、患者さん個々の病態を深く理解し、それを分かりやすく伝えることで患者さんの治療に対するやる気を引き出し寄り添うことです。すなわち、糖尿病医療では、受診、治療継続に向けた患者さんの行動変容を促す療養指導がきわめて重要な役割を果たします。糖尿病専門医の数が十分でないだけに、糖尿病の専門的な知識を有する多職種の育成が強く求められています。その療養指導のエキスパートである日本糖尿病療養指導士(CDEJ)は全国で1万9000人、鹿児島県でも約270人が取得していますが、CDEJの取得や維持は容易ではありません。そこで、日本糖尿病協会は、地域糖尿病療養指導士(CDEL)

の養成を促し支援する方針を示し、鹿児島県糖尿病対策推進会議でも2014年に鹿児島県地域糖尿病療養指導士(KCDEL)認定機構を発足しました。鹿児島県は半島部だけでなく多くの離島を抱えているため、インターネットを利用したeラーニング方式を全国に先駆けて活用し、資格認定試験もインターネットで受験できるシステムを立ち上げました。資格取得や更新にかかるコストも最小限に抑え、多くの医療関係者が取得を目指しやすい制度となつていきます。また、CDEJの認定資格は、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士に限定されますが、KCDELは、医師、歯科医師、歯科衛生士、准看護師、保健師、介護福祉士など、糖尿病患者さんに関わるあらゆる職種に門戸を広げています。この結果、わずか3年間で313名のKCDEL資格取得者が誕生し、鹿児島県における糖尿病医療のマンパワーは大幅に拡充されました。今後、受診勧奨や事後指導のスキルアップのため、特に保健師の積極的な参加が期待されます。

鹿児島県地域糖尿病療養指導士認定機構ホームページ:<http://kicdel.moonbindcloud.jp/index.html>

## 糖尿病治療成績向上のためにもSDMカスタマイズド鹿児島

SDM (staged diabetes management)とは、糖尿病の臨床病期に応じた治療ガイドラインを実践するシステムで、糖尿病を専門としない実地医家、糖尿病患者指導に携わるコメディカルを主たる対象として作成されました。非専門医によるケアの供給を効率化し、治療水準の向上を保証する、2型糖尿病患者への初回経口薬使用についてのフローチャートです。鹿児島県糖尿病対策推進会議では、郡山委員（鹿児島医療センター）を中心に、最新のエビデンスを取り入れた独自のマニュアルを作成し、このほど完成しました。今後、県内各地かかりつけ医で運用されることにより糖尿病治療成績の向上が期待されます。

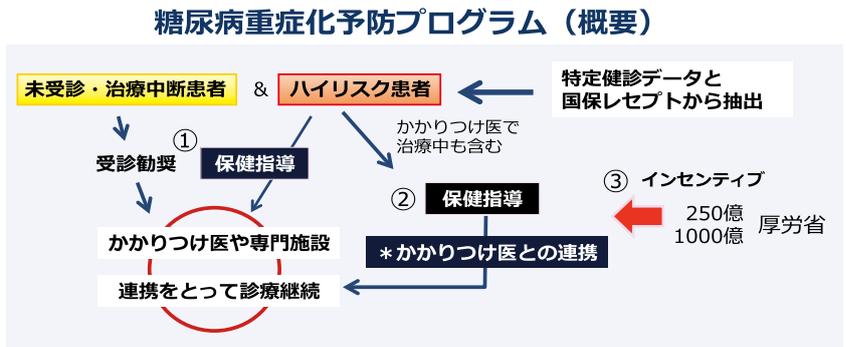
## 今後の取り組み「糖尿病重症化予防プログラム」

糖尿病の重症化予防は、患者さんの命やQOLを守るだけでなく、例えば透析にかかる費用など医療費の大きな節減という面からも重要事項と考えられ、行政も国策として取り組むことになりました。2016年、厚生労働省、日

本医師会、日本糖尿病対策推進会議の3者は連携協定を結び、糖尿病性腎症重症化予防のためのプログラムを策定し、全国展開することを宣言しました。そのプログラムは、健診データと国保レセプトを組み合わせることで、①糖尿病の未治療者や治療中断者を抽出し受診勧奨を行う。②糖尿病性腎症のハイリスク患者を抽出して保健指導を連続的に行っていく。③その取り組みとアウトカムに対して、国が各保険者にインセンティブをつけるというものです。鹿児島県糖尿病対策推進会議はこのプログラムを発展させ、今後、鹿児島県、鹿児島県医師会と連携協定を結び、「糖尿病重症化予防プログラム」として実施していく予定です。特定健診受診者の中で医療機関未受診者や治療中断者、かかりつけ医で治療中も含むハイリスク患者の抽出を行い、保健師・看護師が未治療者へ個別訪問して受診勧奨・保健指導を行っていきます(図3)。

このように、鹿児島県糖尿病対策推進会議は、鹿児島県の糖尿病重症化予防や治療成績向上のための地域連携、医療連携への取り組み、多職種連携に向けた教育、様々な糖尿病啓発イベントの運営に幅広く関わっているのです。

図3.糖尿病重症化予防プログラムの概要





**執筆者**

鹿児島大学大学院糖尿病・内分泌内科学助教(診療講師)  
鹿児島県糖尿病対策推進会議(委員)  
鹿児島県地域糖尿病療養指導士認定機構(事務局長)

でぐち たかひさ  
**出口 尚寿**